

第5学年○組 国語科学習指導案

指導者 ○○ ○○

1 単元 資料を用いた文章の効果を考え、それをいかして書こう

「固有種が教えてくれること」

2 本単元の指導にあたって

○児童観

本学級の児童は、これまでに、説明的文章の学習において、事実の中心や筆者の主張の中心をとらえて要旨をまとめることができるようになってきている。また、原因と結果を本論の文章の中から見つけ出し、主張とのつながりから要旨に必要な情報かを判断する学習経験も行っている。そこで、他教科の学習においても、複数の資料や情報から読み取った内容を結び付けて考えを深めることができるようになるこの期に本単元を取り上げる。そして、主張が伝わるための効果的な資料の用い方を理解し、国語科だけでなく他教科においても、自分の主張と根拠として資料を用いることができるようにする。このことは、既習の説明文との相違点から学習課題を見だし、主張と資料の関係や筆者の意図について自分の考えを形成する子どもを育てる上からも意義深い。

○教材観

本教材においては、筆者の主張が伝わりやすくなるための工夫について、図表や統計グラフなどの資料を文章に関連させて読んだり、本論を二つに分け論を展開する筆者の意図を追究したりする過程で自分の考えを形成する力を育むことができるという価値がある。

本単元に関しては、第4学年「アップとルーズで伝える」の学習で、写真と文章を照応させながら内容を読んだり、段落の役割を意識して文章構成をとらえたりしてきた。また、双括型の文章構成に出会い、初めと終わりで主張を述べることは読者への説得力を強化するというよさも実感してきている。本単元ではこれらの上に立って、主張を読み手に納得させる二段構えの論構成の工夫や資料を用いた効果について自分の考えをもつことをねらいとしている。このことは、第6学年で資料に対する筆者の見方をとらえ、そのことに対する自分の考えを形成していく学習へと発展していく。このことは、次単元の資料を活用して自分の考えを記述する学習へと発展していく。

○指導観

本単元の指導においては、書かれている内容を基に要旨にまとめるとともに、主張を読み手に納得させる二段構えの論構成の工夫や資料を用いた効果について自分の考えをもつことができるようにしたい。そのために、各段落の中心文を基に一文要約したものを文章構成図に整理し、要旨をまとめたり、筆者と読者の両方の立場から資料の効果や七段落を転換点として中が二つに分かれている論展開のよさを追究したりする活動を構成する。

特に本時では、読者の立場から資料2が文章のどの部分をわかりやすくしているのか資料の効果进行明らかにし、その後筆者の立場から資料を用いた意図を探ることによって、筆者の主張に説得力をもたせる工夫を読み取ることができるようにする。そのためにまず、「三輪スタンダードであう段階」のパターン③「不十分さに気づく」を活用し、資料1と資料2を比較させ、資料2の特徴を明らかにすることで、資料2を用いる効果について考える見通しをもつことができるようにする。次に、「三輪スタンダードつくる段階」では、主張と根拠を説明する話型を提示することで、読者の立場から資料2の効果筋道立てて説明することができるようにする。そして、「三輪スタンダードふかめる段階」において、資料2を用いることで、筆者は主張のどこを強調したいのかを問い、自作の資料を用いてまで筆者が伝えたいことは何かを考えることができるようにする。最後に、「三輪スタンダードふりかえる段階」において、資料2を用いて筆者が伝えなかったことが何かをまとめに入れることを確認することで、筆者の立場から見た資料2を用いる効果についてまとめることができるようにする。さらに、内容知、方法知、メタ認知の3つの観点を示し、まとめプラス1を書かせ、自分の学びや成長について自覚することができるようにする。

3 目標

(1) 文章と図表等を結び付けて内容をとらえ、読者に主張が伝わりやすくするための文章の構成や展開を理解することができる。

(知識及び技能)

(2) 読者や筆者の立場に立って、資料を用いた文章の効果や論の進め方の工夫を読み取り、筆者の意図を自分なりに表現することができる。

(思考力、判断力、表現力等)

(3) 「固有種」が何を教えてくれるのかに関心を持ちながら、意欲的に文章に関わり、筆者の説明の仕方とその効果について、積極的に交流したりまとめようとしたりする。

(学びに向かう力、人間性等)

4 指導計画（総時数 8時間）本時⇒●

次	学習活動・内容	主眼	三輪スタの活用方法
一 ②	①全文を通読し、初発の感想を書く。	○既習の説明文との違い、内容や述べ方で分かったことや疑問に思ったことという観点で初発の感想を書くことができる。	三輪スタ（であう①） ・既習の説明文との違いを比較することによって、資料がある説明文を読み進めるための課題を持つことができるようにする。
	②交流の中で出てきた疑問や課題などを踏まえて、学習課題を立てる。	○出し合った疑問を整理し、学習の見通しを持つことができる。	
二 ③	③中心となる文を見つけることを通して、文章構成図に内容をまとめる。	○文章構成図を使って文章の内容をまとめることができる。	三輪スタ（つくる） ・要旨をまとめるときの大事なキーを提示することによって、要旨をまとめることができるようにする。
	④中心となる文を見つけることを通して、文章構成図に内容をまとめる。	○文章構成図を使って文章の内容をまとめることができる。	
	⑤題名、事実と主張で最も言いたいことに着目することを通して、要旨をまとめる。	○固有種が教えてくれることは何か、事実と主張で最も言いたいことは何かに着目することで、要旨をまとめることができる。	
三 ②	⑥読者と筆者の両方の立場から考えることを通して、資料の効果を明らかにする。	●読者の立場から資料②が文章のどの部分をわかりやすくしているのか資料の効果を明らかにし、その後筆者の立場から資料を用いた意図を探ることによって、筆者の主張に説得力をもたせる工夫を読み取ることができる。	三輪スタ（つくる） ・2つの大事なキーを位置付けた話型を提示することで、筋道立てて資料②の効果を説明することができるようにする。
	⑦読者と筆者の両方の立場で考えることを通して、中①が	○中①で固有種の貴重さを読者に納得させた上で、中②で生息環境の保護を訴	

	必要な理由を考える。	え、主張につなげるという筆者の論展開の工夫を読み取ることができる。	境を保護したいと思わせる理由が書かれていることに気付くことができるようにする。
四 ①	⑧次単元を見通すことを通して、学習を振り返る。	○次単元に生かしたい述べ方の工夫を中心に学習を振り返ることができる。	三輪スタ（ふりかえる） ・振り返る視点を提示することによって、次単元「グラフや表を用いて書こう」に生かすための振り返りを行うことができるようにする。

5 本時の授業評価指標（ルーブリック）

三輪スタンダードで重視する段階（ つくる段階 ）			
2つのキーを位置付けた話型を提示することで、資料2の効果筋道立てて説明することができるようにする。			
評価項目	C	B	A
ねらいの達成状況	資料2と文章との対応を見つけることができる。	資料2と文章との対応を見つけ、資料がなかったら何がわかりにくいと話することができる。	資料2と文章との対応を見つけ、資料がなかったら何がわかりにくいのか、資料中の数値や地図を提示しながら話すことができる。
目指す子どもの姿（発言・行動など）	①資料2を用いるとわかりやすくなる。図2と「アミノクロウサギの生息～更新世前期に～」のところが対応しています。（記述）	①資料2を用いるとわかりやすくなる。図2と「アミノクロウサギの生息～更新世前期に～」のところが対応しています。（記述） ②もし資料がなかったら大陸から切りはなされて島になったことがわかりにくいと思います。（記述）	①資料2を用いるとわかりやすくなる。図2と「アミノクロウサギの生息～更新世前期に～」のところが対応しています。（記述） ②もし資料がなかったら南西諸島がどこにあって、地図のどの部分が大陸から切りはなされて島になったかがわかりにくいと思います。（記述） ③もし資料がなかったら更新世前期がどれくらい昔なのか（約258万年前から約78万1千年前）がわかりにくいと思います。（記述）

評定	評定の根拠	代案

6 本時案

(1) 主眼

○ 資料2が文章のどの部分をわかりやすくしているのか読者の立場から資料の効果をはっきりさせたり、筆者の立場から資料を用いた意図を考えたりして、読者を納得させるという効果があるということを読み取ることができる。

(2) 日時 令和2年10月30日(金) 第5校時 於：第5学年〇組教室

(3) 学習の展開 (45分)

段階	主な学習活動と内容	三輪スタの工夫	分
であう	<p>1 これまでと今回の説明文のちがいと、資料1と資料2の特徴を確認することで、学習の見通しをもつ。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>【資料1】日本とイギリスのちがいや固有種が日本に多いことが一目で分かる。</p> </div> <div style="font-size: 2em; color: blue; text-align: center;">↕</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>【資料2】固有種が生まれた順番が分かる。</p> </div> </div> <p style="text-align: center;">資料2のよさはこれだけなのか</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: 60%;"> <p>資料2を用いると、どのような効果があるのだろうか。</p> </div>	<p>○資料1と2を比較し、資料2の特徴を明らかにすることで、資料2の効果に関心をもたせることができるようにする。</p>	⑤
つくる	<p>2 読者の立場から資料2の効果を考える。 考えをつくる活動</p> <p>(1) 資料が文章のどの部分と対応し、どのような効果が生まれているかについてグループで話し合う。</p> <p><u>2つのキー ①資料2と文章の対応 ②資料がなかったらどうか</u></p> <p>(主張) 資料2を用いるとわかりやすくなる。 (根拠) 資料2と④・⑤・⑥段落の「—」が対応している。 (理由づけ) もし資料がなかったら～～だ。</p> <p>(2) グループで考えた資料2の効果を出し合い、全体で確認する。</p> <div style="border: 2px solid orange; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>資料2を用いるとわかりやすくなる。図2と、「アマミノクロウサギの生息する～更新世前期に～」という部分に対応している。もし資料がなかったら南西諸島がどこにあるのか、また更新世前期がどれくらい昔なのか(約258万年前から約78万1千年前)がわかりにくい。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>読者の立場からの資料の効果 数値 → 年代がはっきり 地図 → 場所・日本列島の成り立ちの順番</p> </div>	<p>◎2つのキーを位置付けた話型を提示することで、筋道立てて資料②の効果の説明ができるようにする。</p>	⑩
ふかめる	<p>3 筆者の立場から資料2の効果、主張をもとに考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>(筆者の主張) 数万から数百万年もの間生き続けてきた固有種は、生き物の進化や日本列島の成り立ちの生き証人としてきちょうな存在です。また、日本列島のゆたかで多様な自然環境が守られていることのアカシでもあります。その固有種は、この日本でしか生きていくことができません。ですから、わたしたちは、固有種がすむ日本の環境をできる限り残していかなければなりません。それが、日本にくらすわたしたちの責任なのではないでしょうか。</p> </div> <p>「筆者は資料2を用いることで、どこを強調したいのだろう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「数万から数百万年もの間生き続けてきた固有種」のところでは、固有種ってすごいなと読者に思わせなかった。 ・「固有種が日本列島の成り立ちの生き証人としてきちょうな存在」のところでは、<u>資料を見せて、本当にそうだと思わせなかった。</u> (→読者を納得させるという効果がある) 	<p>○資料2が筆者の自作資料であることを示すことで、自作資料を用いてまで筆者が伝えたかったことは何かを考えることができるようにする。</p>	⑮
ふりかえる	<p>4 学びを振り返る活動を行う。</p> <p>(1) 本時の学習をふりかえり、自分の言葉で本時学習をまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>資料2を用いると、「固有種が日本列島の成り立ちの生き証人としてきちょうな存在である」ということを、読者に納得させることができる。</p> </div> <p>(2) まとめプラス1を書く。</p>	<p>○資料2を用いて筆者が伝えたかったことが何かをまとめに入れることを示すことで、筆者の立場から見た効果についてまとめることができるようにする。</p>	⑤

